

ホオジロ 2

草刈作業を始めて間もなく、アカエゾマツの稚樹の周りの草を刈ろうと下枝を持ち上げたところ小鳥の巣がありました。孵化したばかりのヒナ 1羽が小さな赤い口を開けてゆらいでいました。他に卵が4個。ヒバリの巣ではないことは一目でわかりました。巣も卵もヒナも少し小さめなのです。撮影したことで後で調べることにして、作業を続けました。場所は石狩当別は青山地区のオイスカ北海道の植林地、2012年6月16日と記録します。



ノビタキだろうと思っていましたが、ジュンク堂で「日本の野鳥 巣と卵図鑑」(世界文化社)を立ち見しましてホオジロの巣と確認できました。作業中に周りに現れる鳥に注意していました。ノビタキもいましたし、ホオジロも囀っていました。図鑑によるとノビタキの卵の色と模様は明らかに違っていました。シマアオジも卵の柄が似てはいますが、これは滅多にお目にかかれぬ鳥なので、近くにいたホオジロに間違いのないと思います。

作業の終わりに大窪さんが言うには、昼頃にはさらに2羽が孵化したとのこと。刈払機で巣を毀されないように町村翁が番兵してくれたそうです。参加していた4歳と6歳の女兒にも見せたとのこと、嬉しいのですが、周りの様子がすっかり変わったことで親鳥が育児放棄をしないことを祈るのみでした。

草刈作業参加者は50人ほどの多さで、自走草刈機の前作業と人手操作機械も7台ほどあったことで、予定どおりに作業を終えることができましたようです。

当別ダムはダム本体が完成して、湛水試験も終了したようで貯水域の広い部分が泥で白っぽくなっていました。道路の付け替えも終わりに近づいていて、新しい道を通ります。通いなれた旧道も泥に覆われていました。今回はバスに乗せていただきましたので、乗用車



と違って視点が高く、道路も変わってこれまでと違う景色を楽しみました。お蔭様でアオサギやハイロチュウヒなど大型の鳥が飛んでいるのを見ることができました。

←ホオジロ成鳥